

平成29年度 第2回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1. 日 時 平成29年11月9日（木） 午前10時～午後12時30分
2. 場 所 本庁舎会議室棟 101、102会議室
3. 出席状況 委 員 6名
事 務 局 6名（文化スポーツ部長ほか5名）

4. 傍 聴 人 なし

5. 次 第

- 1 開会
- 2 議題 指定管理者面接審査
 - (1) 面接審査の流れについて
 - (2) 企画提案内容の説明
 - (3) 審査会
 - (4) 指定管理者候補者の決定
- 3 その他
- 4 閉会

6. 会議資料

- 大和市立中央林間図書館指定管理者候補者審査要領
- 企画提案書作成要領・評価基準

7. 公開・非公開の状況

☐公開 ☐非公開 ☒一部非公開（※）

※情報公開条例第7条第3号（会議を公開することにより率直な意見交換若しくは意思決定の公平性が不当に損なわれるおそれのあるもの）及び第4号（当該事務の公正又は円滑な実施に支障を及ぼすおそれのあるもの）に該当

<会議要旨>

1 開会（公開）

事務局より委員の出席状況と会議の成立について報告を行った。

2 議題 指定管理者面接審査（公開）

(1) 面接審査の流れについて

事務局より面接審査の流れ等について説明を行った。

委員からの質疑は特になかった。

(2) 企画提案内容の説明

応募者である「やまとみらい」によるプレゼンテーションが行われた。

【質疑応答】

委 員：シリアスの黒い制服は、暗いイメージである。制服は、施設や、やまとみらいの顔でもあるのでよく考えていただきたい。

説 明 者：制服は、やまとみらい内で協議し、最も適切だと思われるものを選択した。現時点では、中央林間でも同じ制服を使用する予定である。

委 員：4点伺いたい。

①レファレンスについて、駅近で面積も狭いため、あえてレファレンスは省略化するというのか。

②安全管理について、女性職員が多い中、利用者とのトラブル発生時の体制と、男性職員の採用について伺いたい。

③スタッフの雇用形態について、社員とは、正社員なのか、契約社員なのか。ある程度長期的な視点に立ったサービスの蓄積や見通しができるスタッフ体制なのかを確認したい。

④多文化サービスの、たとえばパンフレットやサインを外国人向けに用意するといった取り組みを考えているか。

説 明 者：①レファレンスカウンターに常時スタッフを配置し、窓口業務と兼務した形でレファレンス業務を行う予定である。

委 員：蔵書冊数が少ない中、参考図書を置くスペースも確保できない。主にインターネットを使ったレファレンスとし、複雑なものは本館がバックアップするという形か。

説 明 者：そのとおり。タブレットをレファレンスで活用し、本館でもサポートすることを予定している。

②館長をはじめ責任者と呼ばれるスタッフに、ハードクレーム研修などの接遇研修を受講させ、全ての時間に配置する。また、男性スタッフも複数名配置する予定である。

③雇用形態については、長期雇用を確保しているので、1、2年で契約が切れるということはない。

④サインは日本語と英語の併記を提案していきたい。パンフレットについては、英語表記を入れることを検討する。

委 員：外国語が堪能なスタッフはいるのか。

説 明 者：中国語を話せるスタッフを1名配置する予定である。シフトによっては不在の場合もあるが、調整して対応できるようにしたい。

委 員：人員配置は、週5日勤務が9人ということだが、体制としては十分な対応が可能か。

説 明 者：勤務時間、勤務日数など募集条件とは異なっても、中央林間図書館のサービス向上につながる人材であれば、フレキシブルに採用していきたい。

委 員：駅の便利な所に建つが、利用者の来館を待つのではなく、継続的なPRが行われるとよい。

委員：タブレットによる新聞の閲覧が提案されたが、市内にも新聞販売店がある中で、民業圧迫にならないか。

説明者：新聞社ごとに、アクセス数に応じた料金体系に基づき利用料を支払うため、民業圧迫にはならないと考えている。

委員：自己点検は大事だが、提案中にあった「相乗」を実現することによって今までの自己点検、モニタリングに追加したい指標はあるか。

説明者：利用者アンケートの結果をセルフモニタリングに反映していきたい。またそれがシリウスの方にも有益なものであれば、それも共有することで相乗効果を生み出していきたい。

委員：仕事が終わったら早く帰りたいという男性が多いが、そういう男性を呼び込むアイデアはあるか。また中央林間図書館開館時には、多くの来館者で混乱することが想定されるが、安全管理について再確認したい。

説明者：有料データベースの提供などが呼び込むツールの一つになると考えている。開館直後の安全管理については、弊社から危機管理スタッフの配置を検討する。

委員：中央林間図書館の特色として、若い子育て世代の母親の利用も増えると想定されるが、そういった利用者に対するサービスの向上も検討しているか。

説明者：少ないスペース、限られた書籍の中で、どのように子育て世代の母親に向けたサービスを充実していくのか、シリウスとの連携も含めて検討していきたい。

委員：あらゆる広報媒体を活用して宣伝すると思うが、その費用対効果の検証はどのようにされているか。

説明者：具体的な数字での回答は難しい。広告費を使つての宣伝も大事だが、阿波踊りやハロウィンへの参加など、館長を筆頭に地元コミュニティと密接につながることで、その結果口コミで皆さんに浸透していく広告となり、高い効果を得られると考えている。

委員：緊急時バックアップ体制の関係機関に東急が入っていない。消防や警察が到着するまで、東急との連携を密にしないといけないのではないかな。

説明者：ご指摘のとおりなので、今後関係者と詰めていきたい。

委員：2点伺いたい。

①タブレット端末について、同時アクセス数の制限があるのか。また、ハードコピーやデータのダウンロードはどのようにやっていくのか。

②オリジナルトートバックの販売費を図書資料の購入費にあてるということ以外にも、オリジナルグッズを展開し、資料費を確保する予定はあるか。

説明者：①著作権が許可された範囲内で、館内に設置する複合機で出力できるよう考えているが、技術的な部分で検証中である。

②トートバック販売の利益は1枚当たり500円程度なので、大きな財源にすることは考えていない。コンセプトとしては、地元の書店さんや地元の方に還元することである。また、地域の障害者施設で作られた製品の販売を考えており、障害者の日ごろの活躍を広く発信することにも役立てたい。

委員：著作権の範囲内ということは、ハードコピーしたものを職員が確認するのか。

説明者：各有料データベースの中で許可されるものしか印刷できない。

委 員：今後オリジナルグッズの販売を商業行為としてやっていく予定はあるか。

説 明 者：ない。障害者施設の製品も、売り上げはすべて障害者施設に戻す。

【仮採点】

質疑応答の結果を踏まえ、各委員に現時点での仮採点を記入いただき、事務局が集計を行った。

（３）審査会（非公開）

- ・事務局が集計した仮採点の結果をもとに、委員によって評価が分かれた項目を中心に意見交換を行った。
- ・意見交換の結果を踏まえ、各委員に最終的な採点を記入いただき、事務局が集計を行った。
- ・最終的な採点の集計の結果、合計評価点は、最低基準点の 360 点に評価者数（6 人）を乗じた 2,160 点を超えており、かつ最低基準点以上を付けた評価者の数が過半数を超えていた。

（４）指定管理者候補者の決定（公開）

会 長：引き続き、候補者の決定を行う。合計評価点が、最低基準点の 360 点に評価者数（6 人）を乗じた 2,160 点を超えており、かつ最低基準点以上を付けた評価者の数が過半数を超えている。そこで当審議会としては、「やまとみらい」が仕様書等で示す要求水準を満たすと認め、候補者として決定したい。いかがか。

委 員：今回、委員から様々な意見や提案があったので、審査結果に付帯することはできないか。

事 務 局：今回の審査会については、候補者として決定するか否かの判断ではあるものの、貴重な意見が多数寄せられたことから、指定管理の協定の締結に向けて、しっかりと相手方には伝えて、業務に反映させたい。

会 長：それでは、本日、委員から出された意見は、今後の運営に役立てていただくことで、「やまとみらい」を候補者として決定してよいか。

一 同：異議なし。

３ その他（公開）

審議会の選定結果を受け、今回の結果の公表及び指定管理者の指定に向けた市側の今後の手続きについて、事務局から説明を行った。

４ 閉会（公開）

以上